

Japan Association For Improving School Lunch

公益財団法人

学校給食研究改善協会

平成 29 年 12 月 27 日 発行

〒 160-0004 東京都新宿区四谷 3-12

TEL : 03-3357-6755 FAX : 03-3357-6756

<http://www.gakkyu.or.jp/>

上記 URL で本紙のバックナンバーがご覧になれます。

もくじ

「これからの学校に求められる食育推進のPDCA」

～食育推進体制と食育の評価を中心として～ 1～14

「これからの学校に求められる食育推進のPDCA」 ～食育推進体制と食育の評価を中心として～



出席者

文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課
文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課
国立大学法人福岡教育大学大学院教育学研究科
新潟県村上市立保内小学校
岐阜県七宗町給食センター
福井県越前町立宮崎小学校
コーディネーター
公益社団法人全国学校栄養士協議会

学校給食調査官
食育調査官
教授
校長
栄養教諭
栄養教諭

会長

齊藤 るみ
横嶋 剛
脇田 哲郎
二平 芳信
臼田 典子
佐藤 佳代

長島 美保子
(すべて敬称略)

近年の急激な社会環境の変化の中で、子供たちが健全な食・生活習慣を身に付けることは、さらに重要となりました。そんな中、本年3月に文部科学省より食育推進体制と食育の評価を中心とした冊子「栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育」が全国の小・中学校に配布されたところですが、多忙な学校ではまだ十分な活用に至っていないという実態があります。そこで本号ではご出席の先生方に、この冊子の効果的な活用方法をくわしく語って頂き、学校全体で行う食育を具体的にどのように進めていけばよいか、その成果をどのように評価していけばよいかについて、分かりやすく、また明解な参考指標となるように、心がけて編集しました。

「健康・体力向上プロジェクト部会において、校長がリーダーシップを取り全職員（栄養教諭が同席）が取組内容と方法を共有する」
撮影協力 新潟県村上市立保内小学校

文部科学省「栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育」の活用を通じた学校における食育の進め方



【長島】社会環境・生活環境の急激な変化の中で、生涯にわたって健康に生活できる国民を育てる上からも、子供たちに健全な食習慣や食の知識を身に付けさせることは大変重要です。栄養教諭制度が始まって12年、今日まで栄養教諭が

食に関する指導と学校給食の管理を一体として取り組んだ結果、子供たち・保護者・地域の食育への意識が高まってきましたが、栄養教諭未配置の学校も多くあり、義務教育における一定水準の食育が全ての学校で行われるためには、多くの課題があります。

そんな中、本年3月に文部科学省(以下文科省)より「栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育」(以下本冊子)がまとめられ、全国の各学校に配布されたところ です。

図1 「栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育」



平成 29 年 3 月発行 文部科学省



初めて食育の推進が明記された現行学習指導要領も本年3月31日に改正の告示があり、平成32年に小学校、翌33年に中学校がそれぞれ全面实施される予定ですが、今年度は、全国で新しい学習指導要領について周知を図ることになっています。

このような状況の下、学

校における食育は、今後どのような方向を目指すのか、本日はそれぞれのお立場からのご意見を頂きます。まずは作成の背景などについて、横嶋食育調査官にお伺いします。

・本冊子作成の背景・趣旨・ねらい

・地域・学校・栄養教諭・職員の間で認識に格差があるので、全国同等のレベルを担保した食育の推進ができるようにする、ということが作成の根底にある

【横嶋】栄養教諭制度ができて約12年が経過しましたが、

全国各地における食育の推進状況を見ると非常に地域差・学校差が大きいと感じます。

また栄養教諭本人が何をどのように行うべきかという職務に対する意識や、栄養教諭を取り巻く職員の方々の認識にも差があると思います。

今回作成した本冊子は、そういった様々な格差をなくし、全国どこでも一定レベルを担保した食育を推進できるようにするというを基本にしています。

【長島】齊藤調査官、お願いします。

・管理職・職員も栄養教諭自身もその役割を正しく理解することで格差も改善され、一定の水準に達する

【齊藤】栄養教諭制度ができて、各々の立場で懸命に取り組まれてきましたが、その中で、栄養教諭に求められること、取り組むべきことの個人・学校・地域によって格差があることは感じています。しかし栄養教諭自身も、周りの管理職や職員の方々も栄養教諭の役割をよく理解し、栄養教諭を中核として学校全体で食育を推進することにより、格差もなくなり一定の水準に近づくのではないかと考えています。

【長島】それでは、「栄養教諭を中核としたチーム学校で取り組む食育推進のPDCA」をまとめられるにあたっての経緯について、さらにお伺いします。



・中教審の答申を受けて、「次世代の学校地域」創生プランが策定され、チーム学校における栄養教諭の役割が問われて、「養護教諭・栄養教諭の在り方に関する検討会議」を設置し、検討した

【横嶋】平成27年12月21日に中央教育審議会より3つの答申が出され、その中の一つに、「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策」があります。これらを踏まえて、文科省では翌28年1月に「次世代の学校・地域」創生プランを策定しました。ここで「チームとしての学校」が大きな柱として取りあげられ、これからの学校において栄養教諭は何をすればよいのかが問われました。

そして同年の7月に「養護教諭・栄養教諭の在り方に関する検討会議」を設置し、検討を進めてきたという経緯があります。

【長島】では二平校長先生、このような背景を踏まえて、今後、学校における食育はどのような方向を目指すのか、お願いします。

・今後の学校における食育の方向性について

・学校経営をするにあたって、栄養教諭は重要・不可欠
・スーパー食育スクールに指定され、取り組んだ結果、市全体で食育は重要であるという考えが浸透、栄養教諭の存在がなければ、推進が困難な状況になる

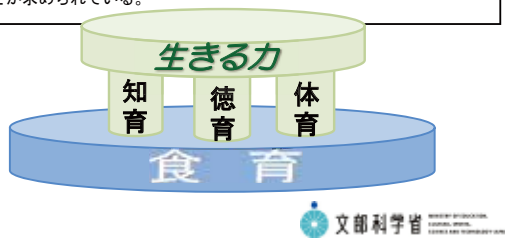
【二平】新潟県村上市は、スーパー食育スクール事業の指定校として実践・研究を重ねた村上小学校の取組が広く知られたことで、以前より食育が知育・徳育・体育の基礎であるという考えが市内各学校に浸透し始めていると思えます。

資1 食育基本法

食育の基本理念と方向性を明らかにするとともに、食育に関する施策を総合的かつ計画的に推進するために、平成17年6月成立、平成17年7月施行。

【前文】(抜粋)

子どもたちが豊かな人間性をはぐくみ、生きる力を身に付けていくためには、何よりも「食」が重要である。今、改めて、食育を、生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきものと位置付けるとともに、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てる食育を推進することが求められている。



したがって当校だけでなく、市全体で食育が推進されていますので、学校経営上、栄養教諭はなくてはならない重要なポジションを担っているという認識をもっている校長が多いと思えます。

実際に、「食に関する指導に係る全体計画」を作成する際にも栄養教諭の存在が欠かせません。ただ、多くの学校を担当する栄養教諭もおり、対応しきれない状況が見受けられます。

【長島】新学習指導要領においても、食育はさらに充実が図られようとしています。脇田先生、色々な場面で栄養教諭と接点があると思いますが、お考えをお願いします。

・食育の観点が反映された学級活動の授業が、全国に広がることを期待している

【脇田】平成20年度学習指導要領の改訂で、「学校給食等望ましい食習慣の形成」という表題に、「食育の観点を踏まえた」という文言が加筆されました。これについては「食に関する指導の手引」の中に「食育は学校教育全体を通して行う」と示されており、学級担任にはこれを基に「学級活動の内容を核としながら、学校全体で食に関する指導をしっかり進めましょう」と説明しています。学級活動の授業に食育の観点が反映され、このような授業が全国に広がればよいと考えています。

【長島】栄養教諭は、食に関する指導と学校給食の管理という大きな2本の柱を一体のものとして行う職員で、学校給食の管理については、本冊子の中にも詳しく書かれていますが、このあたりの願い・想いについて齊藤調査官お願い致します。

・チーム学校における栄養教諭の在り方

・栄養教諭は、学校給食を管理しているという職務を活かして食に関する指導を行うことが重要
・その際、全体をコーディネートすることが重要

【齊藤】これまでの栄養教諭の取組の中で、食に関する指導と学校給食の管理を一体のものとして行う職務を担いながらも、食に関する指導を行う一方で、学校給食の管理が不十分であったり、その逆もあつたりというような実態があります。

食に関する指導を行うためには、栄養教諭は学校給食の献立を作成している、学校給食を管理しているという職務を活かすことが重要で、学校給食の管理を食に関する指導に活かしてほしいと思っています。

資2 栄養教諭の職務

教育に関する資質と栄養に関する専門性を生かして、教職員や家庭・地域との連携を図りながら、食に関する指導と学校給食の管理を一体のものとして行うことにより、教育上の高い相乗効果をもたらします。

(1) 食に関する指導

- ① 給食の時間の指導
給食の時間における食に関する指導
- ② 教科等の指導
教科等における食に関する指導
- ③ 個別的な相談指導
食に関する健康課題を有する児童生徒に対する個別的な指導

(2) 学校給食の管理

- ① 栄養管理(献立作成)
学校給食実施基準に基づく、適切な栄養管理
- ② 衛生管理
学校給食衛生管理基準に基づく危機管理、検食、保存食、調理指導 調理・配食 等

一体として推進

教職員、家庭や地域との連携・調整

4ページ 文部科学省 平成29年3月「栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育」より

今回このことが本冊子に記載されたので、これまで栄養教諭が行っている給食管理についてあまり知らなかった職員の認識を深めることにもつながり、学校全体で食に関する指導と学校給食の管理を一体として推進することへとつながっていきます。

ただ、職種によって関わり方も違いますので、栄養教諭が管理を行う際は、実務を一人で行うのではなく、上手く全体をコーディネートしながら、役割を分担することも重要です。

【長島】このような願いをもって作成された本冊子が全国の各学校に配布されましたが、現在学校現場ではどのように受け止められ、活用されようとしているのか、二平校長先生、伺います。

・本冊子を校長と栄養教諭がよく読んで理解し、食育を進めていけば、学校全体に十分浸透していく

【二平】本冊子の内容は大変素晴らしく、これを校長と栄養教諭が読むだけでも学校を変える事ができる程の内容だと思います。これを読めば、校長がリーダーシップをとって食育を推進し、学校評価の項目に食育を入れることを検討するところが出てくるでしょう。また、栄養教諭は中核となって学校における食育を推進していかねばならないということが、改めて分かると思います。

【長島】脇田先生、いかがですか。



・本冊子の内容を主な4項目にまとめて話している

【脇田】本冊子の内容をまとめると、①栄養教諭の仕事の内容を明確に位置付けて、それを学校がチームとして進めていかなければ

いけない、②食育を推進していく上で、校長の指示を受けつつ、栄養教諭としての専門性を活かしながら全体計画を立て、③これを学級担任と共に、約190回の給食の献立の中で、食に関する情報を発信していく、④学校が食に関する指導を組織的にシステマティックにどのように推進していくのか、ということが分かりやすく書かれています。この内容をよく踏まえて、しっかり活用して下さいと研修会などで話しています。

・本冊子についての学校における印象と生きた活用方法

【長島】本冊子が実際現場に届いた時に、栄養教諭がどのように受け止めたのか、校長先生はじめ先生方の手に渡って、学校の中で何らかの議論がされたのか、そのあたりについてはいかがですか。

・分り難かった評価について分りやすく具体的に記載されているので今後参考にして、学校現場で活かしたい

【臼田】4月に異動となり、新しい学校で本冊子を1学期の終わりに手にしましたが、今、目を通してはいる状況で、まだ活用には至っていません。本冊子はPDCAサイクルが具体的に記載されているので分かりやすく、とても参考になります。私は、今まで評価の点についてどう考えたらよいか難しく思っていました。評価の実際や次につながる改善が具体的にイメージでき、今後に活かしたいと思えます。これから学校で協議し、来年度に向けて取り組もうと思っています。

【長島】佐藤先生いかがでしょうか。

・内容をよく確認して、組み立て、学校全体に広め、参考にしながら評価に食育を入れることなど取り組む

【佐藤】本冊子は届きましたが、まだ本務校の中での話し合いはできていません。今後、栄養教諭として取り組むことをまず自分の中でしっかり組み立てた上で、学校全体に広めていきたいと思っています。

また、本冊子を参考にしながら学校のスクールプランに合わせた評価についてよく考え、来年度への取組に生かしていきたいと思っています。

【長島】全国学校栄養士協議会では本冊子の活用について、栄養教諭の声を聞き、まとめています。その内容は①職員会議で周知して全教職員で内容を共有した、②来年度の食育の評価に取り入れる、などの前向きな意見があった一方で、③管理職がよく読まずに栄養教諭に本冊子が届いたので、内容を周知共有して取り組むことができるか不安、④栄養教諭未配置校では無関心になりやすいの

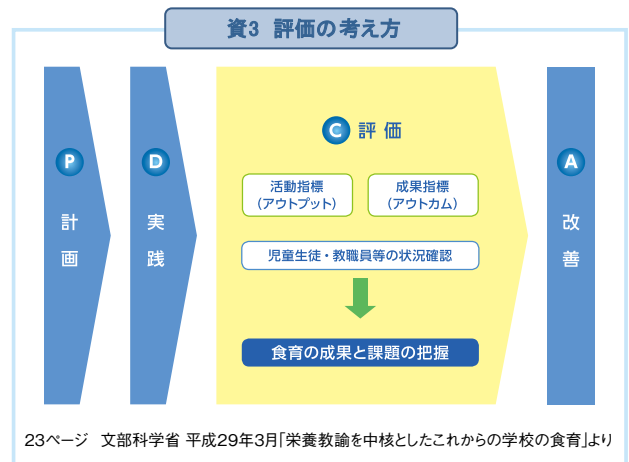
で手立てが必要ではないか、⑤受け皿となる組織体制や校長のリーダーシップが必要であるなど、活用に向けての不安な声も聞かれました。

栄養教諭の役割や活動内容の共通認識を図るべく、本冊子の生きた活用についてお伺いします。

・本冊子の生きた活用について

- ・評価内容が丁寧に分かりやすく書かれているので、来年度に向けてよく読んで活用していきたい
- ・校長会、小・中教研などで研修する方法もある

【二平】本冊子の特徴として、評価内容が丁寧に分かりやすく書かれていますから、来年度に向けてよく読んで無理のない範囲で、ぜひ活用したいと思っています。



また、本務校でない学校の校長先生にも読んで頂けるよう、地区の校長会で紹介したいと思います。さらに、どの地区にもある小教研(小学校教育研究会)・中教研のような様々な研修会などの機会に、この内容について要請していくこともできると思います。

【長島】では、栄養教諭としての立場で自分たちが頑張らなければ、という気持ちがあると思いますが、そのあたりはいかがでしょう。

・栄養教諭としての心構え

- ・これまで自身がやらねばという思いが先行していたが、教職員と連携して取り組むことが最も効果的と痛感
- ・校長の食育に対する理解、周囲への声かけが有難く、受け入れ態勢ができていますので助かっている

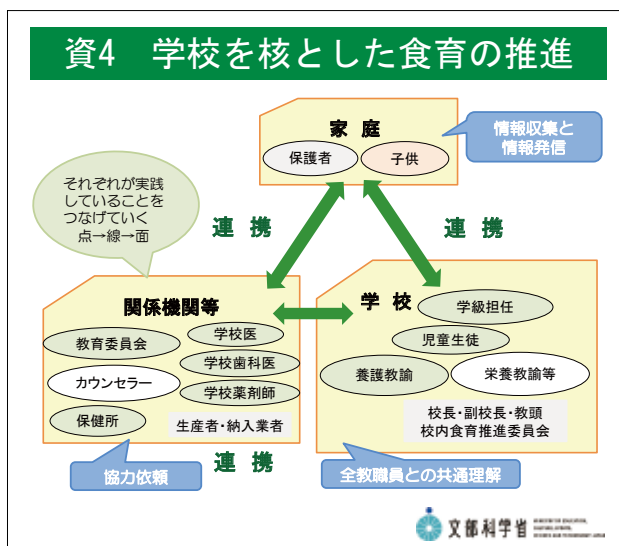
【臼田】栄養教諭に採用された当初は、自分が食育をやらなければという思いが先行していましたが、今では子供たちのことをよく知っている先生方と連携して取り組むことが、効果が高いことを痛感しています。また、校長先生が食育の重要性を職員会議等で話して下さい、後押しして下さいが一番有難く、心強いです。

【佐藤】本務校の校長先生が教職員の方々に日ごろから声をかけて下さり、相談しやすい体制になっていることが、とても有難いです。特に兼務校となると中々出向く機会も少ないのですが、受け入れ体制が整っているのも助かっています。

【長島】本冊子の配布により、現場としての目指す方向が見えてきましたが、周知徹底を図る上で課題もあるようです。このあたりをまとめて頂けますか。

- ・本冊子の周知徹底をどのように図るか
- ・周知徹底するためには行政レベルからの強い働きかけと現場の栄養教諭双方からの発信が必要
- ・栄養教諭自身が考えて説明することを心がけてほしい

【横嶋】本冊子の周知を図るには、大きく二つの方向性があると思います。一つは、文科省、県教委、市町村教委など、行政レベルから学校への強い働きかけ、もう一つは、現場からのボトムアップすなわち栄養教諭や食育担当者から管理職者をはじめとする全教職員への発信、これら二つの方向性が必要だと思います。



文科省が6月に開催した行政担当者研修会で、本冊子の活用方法について尋ねた際の回答では、①全ての学校で一度、本冊子を使って研修を行うように働きかけをしたい、②県レベルの研修会の際に、参加者全員に本冊子を持参して頂いて実施している、などがありました。行政からの働きかけが必ず必要になると思います。

一方、研修会の際に栄養教諭等に本冊子の活用について尋ねたところ、ただ「私の机に置いてありました。」といった栄養教諭の返答が多く見受けられましたが、それを実際どう活用するのかを考えて、行動に移して頂きたいのです。

もちろん本務校と兼務校の違いはあるにしても、本冊子のPDCAをまわすための組織作りや、実践したことをどう評価していくかについては、栄養教諭自身の考え方を管理職・担任の先生方にぜひ説明して頂きたいと思います。管理職者のリーダーシップと栄養教諭をはじめとする先生方の実践の両面があって、初めて少しずつよい方向に進むと思います。

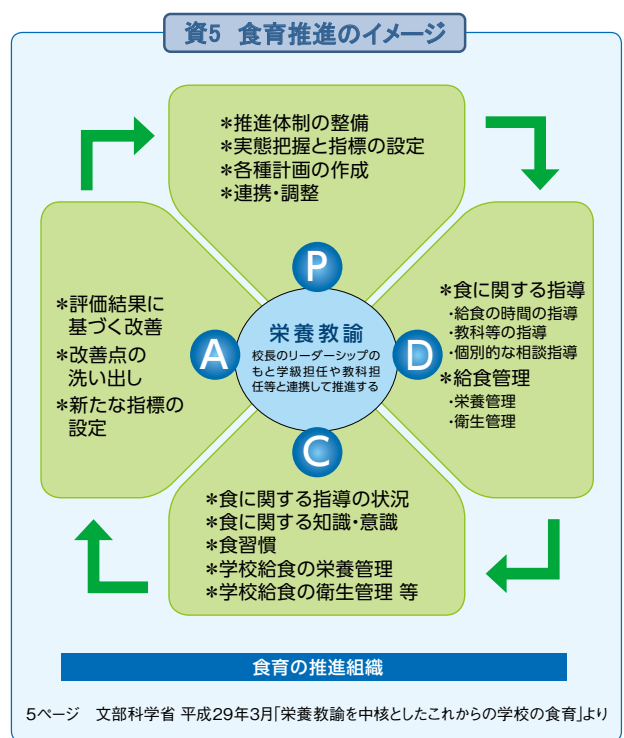
- ・学校の食育については、思いつきやイベントのような取組では定着しない

【長島】おっしゃる通りですね。その中で、本冊子は様々

な思いがしっかり込められていますから、ぜひ活用に向けて活かして頂きたいと思います。

学校の中の食育に関連する組織体制ができていれば、本冊子の受け皿としてその体制を活用することができそうですが、学校における食育が、思いつきやイベントのような単発的な取組では定着せず、成果も上がりませんから、正しい取組の方向性を踏まえることが重要です。

さて、この食育の推進体制を構築するに当たり、どのようなことに留意すればよいか、お聞かせ下さい。



5ページ 文部科学省 平成29年3月「栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育」より

組織体制の構築と本冊子の読み方・解釈の仕方



- ・学校における食育推進の体制作り
- ・食育推進に当たり、まず学校長と職員が重要であると認識し、指標を設定し、進めることが重要
- ・食に関する指導に係る全体計画・年間指導計画を作成し、これを全教職員が共通認識し、教科等横断的に推進していく
- ・栄養教諭は専門性を活かし、給食を活用した食育推進のコーディネートを心がける
- ・しっかり管理された給食は生きた教材となり、食に関する指導につながる

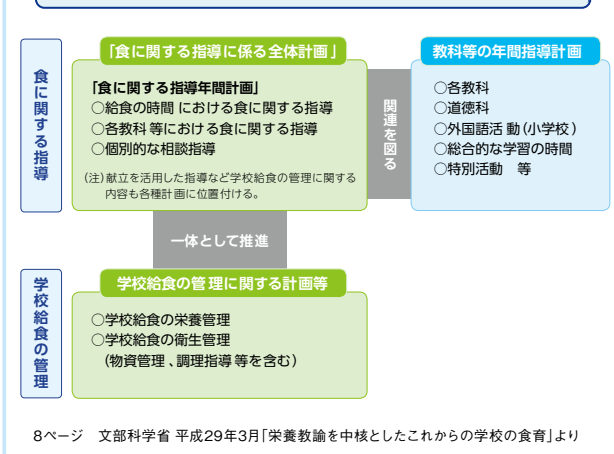
【齊藤】学校で食育を推進するにあたっては、まず学校長がよく理解し、職員一人一人が食育の重要性を認識することが大切です。また、学校の課題に応じて、指標を設定し、進めることも重要です。学校全体で取り組むためには、食に関する指導に係る全体計画・年間指導計画を作成してこれを全教職員が共通認識し、各教科等および各

学年に即した指導内容が、教科等横断的な形で食に関する指導につながればよいと思います。

栄養教諭は献立を作成しているという立場からその専門性を活かして、食に関する指導に活用できる給食の献立作成や食材の組み合わせなどのコーディネートを心がけて頂きたいと思います。それらは子供を通して家庭にも発信されるので、とても重要です。

併せて、調理従事者に対して衛生管理の指導を徹底して頂くことも大変重要です。

資6 食育推進に関する諸計画等の関連



8ページ 文部科学省 平成29年3月「栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育」より

このようにしっかり管理された給食は、生きた教材として活用できますので、学校給食を活用した食育の推進につながります。また栄養教諭が一人で全学級に関わることは難しいので、自ら発信するだけでなく、学校全体で指導できる体制につなげていくコーディネーターの役割も担っていることをよく認識して取り組んで頂きたいと思います。

- ・食育推進体制は学校の既存の組織の中にある
- ・食の指導と給食管理を、共にPDCAにのせて回していくという両方の面を、教員全体が認識して推進していく、という大きなポイントを分かりやすく記載している

【横嶋】推進組織の体制については、食育推進委員会という名前のものがなくても、学校には食育を推進していくための何らかの組織は既にあると思います。ただ組織として機能しているところはまだ多くはないようです。

今回、食に関する指導と給食管理を一緒に載せた意図は、指導と管理の両方を教職員全員が理解しPDCAサイクルにのせて推進していく、ということです。

これらを一体的に進めるために、担任の先生方でも理解できるように簡易で分かりやすい内容にすることを前提としました。

【長島】食育という教科がない中で、教育活動全体を通して重要な指導として位置付けて取り組むためには、チームとしてどのような組織が考えられるのか、脇田先生お願い致します。

- ・教育目標の中で健康に関わるものには必ず食育が入る

- ・栄養教諭を中心とした食育部会のような組織の中で、食育を位置付けていく教科を見極めた上で、進める

【脇田】学校では、子供たちの知・徳・体を育てていく観点で、教育目標が作られていきます。その中の健康に関わるものには必ず食育が入ってきます。私も校長の時は、健康教育を推進する「身体づくり部会」に食育係を位置付け、栄養教諭等を配置していました。

ただ、校内に組織を設置するだけでは食育は推進されません。その組織が年度はじめに、特別活動や道徳、総合的な学習の時間などの教科を組み合わせでダイナミックで具体的な食育推進プランを立て、これを実施して、評価、改善していかなければなりません。そのためにも、栄養教諭と教諭相互の専門性が活かされる組織が必要になってきます。本冊子にはこれらを踏まえて、年度初めの働きかけについて書かれており、参考になります。

【長島】それでは二平校長先生、学校における食育の組織作りについての手立てをお話し頂けますか。

- ・学校長としての組織体制作りとこれを機能させる方法



- ・食習慣・生活習慣が乱れると学力・体力も上がらないということを校長が認識することが重要
- ・目標は2つに絞り込んで設定し、評価・検証している
- ・学校課題解決に食育が必要との認識で組織は機能する

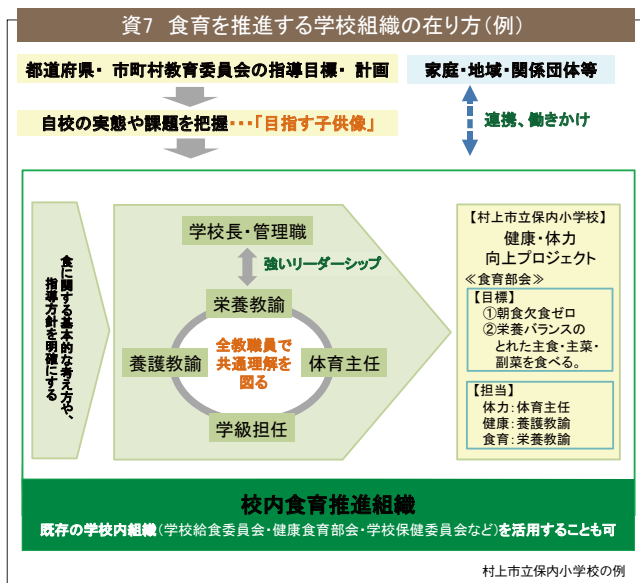
【二平】校長は「目指す子供像」の実現に向けて、学校課題を考え、それを解決するために学校経営上必要と思われる手立てを講じます。私は、食習慣・生活習慣が乱れていると、学校課題が解決されないと思っているので、食育の充実・食育推進体制の構築を重要視していますが、それは校長によって様々です。しかし、校長が学校課題に食育はあまり関係ないと思っている間は、教育課程を編成する際に重要視されないと思います。

ちなみに、本校の学校課題は、「学力向上」「豊かな心の育成」「健やかな身体の育成・体力の向上」「特別支援教育の充実」の4つで、食育推進の基盤となる組織は、健康・体力向上プロジェクトの中の食育部会です。目標は、①朝食欠食ゼロ、②栄養バランスの取れた主食・主菜・副菜を食べるという2つに絞り込んで設定し、保護者に伝えて働きかけます。そして子供がどうか変わったか(アウトカム)もきっちり評価して検証を行っています。

この体力向上プロジェクトの中心は、栄養教諭・養護教諭と体育主任の3名です。体力関係は体育主任、健康関係は養護教諭、食育に関しては栄養教諭が中核となって取組を進めています。

このプロジェクト部会が機能するためには、年度初めに職員会議で校長がリーダーシップを取って、全職員が取組内容と方法を共有し、理解できるように目標を明確

にしてしっかり説明しなければなりません。特に食育に関しては、栄養教諭が専門性を発揮して活躍できるように、職員に働きかけて環境づくりをすることが重要だと考えています。



「学校課題解決に食育が必要である」という校長の認識があれば、食育を推進しようとする学校の雰囲気が高まって、食育の推進組織がうまく機能していくことになるのだと思います。

【長島】栄養教諭も、自分が中核となって進めていくという認識がとても重要です。どのような組織体制でどのように機能させておられるか、お伺いします。

・栄養教諭の組織体制作りとそれを機能させる方法



・前もって食に関する指導の提案を教務主任に伝え、学校行事等に組み入れるなどした後、職員会議で共有し、教職員の認識につなげている

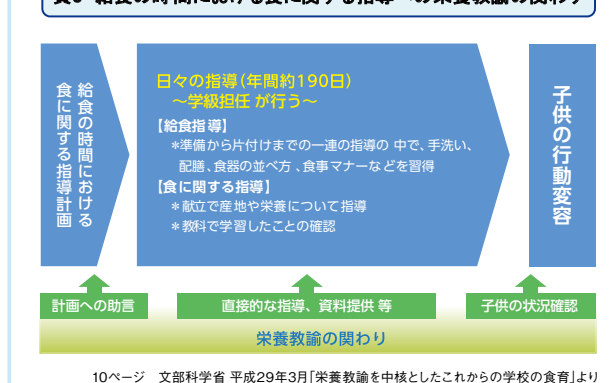
・管理と指導を給食センターと学校で、バランスよく両立させることを心がけ、センター所長との連携、調理員の教育にも注力している

【臼田】本務校では、食に関する指導の提案は栄養教諭が中核となって行っています。前任校では、生活指導部会に所属し、提案し、確認した具体的なことを教務主任に伝え、学校の行事予定に組み入れてもらったり、週報に書いてもらったりして、職員会議の打ち合わせの場で先生方と共有していました。兼務校では、それぞれの学校の食に関する年間指導計画があり、給食主任を通じて内容の依頼や相談があるので、意図に添うような協力をしています。

また、給食センターの組織も大事と考え、所長との連携や理解して頂くことを大事に考えています。調理員との関わりも大事で、調理員を育て、信頼することで、安心

して学校に行くことができます。また、学校での子供たちの様子を所長や調理員にも伝えて、管理と指導がバランスよく両立していくことを心がけています。

資8 給食の時間における食に関する指導への栄養教諭の関わり



【長島】佐藤先生はいかがでしょう。



・年度初めに県教委から出たテーマにそって、年間献立計画を立て、職員会議で説明し、実施している

・組織的には指導部会→職員会議で全職員が共通理解

【佐藤】町内の栄養教諭が次年度

に向け地場産物を活用した魅力ある献立年間計画を検討します。栄養教諭は、それぞれの本務校において、スクールプランにそった食育の全体計画、年間指導計画を作成し、年度初めの職員会議で献立と教科等を関連させた給食の提供についても説明します。また、県の和食推進事業ともからめた取組を行っています。

私の本務校には、食育推進委員会はありません。2つある部会のうち、指導部会において、保健主事・体育主任・養護教諭・生徒指導・栄養教諭等が、学校における食育の取組などについて様々な視点から検討し、職員会議にかけ全職員で共通理解を図っています。

【長島】では、栄養教諭が中核となって、教員・スタッフ等の協力を得て組織的・計画的に食育を充実・推進していくための具体的な進め方についてご意見を頂きたいと思います。

・学校の既存の組織であっても、取組次第で、十分食育のための組織として機能させることができる

【二平】形や名前が違って、学校には健康・食育に関する推進組織はありますから、まずそこを機能させれば組織を新しく作らなくてもよいわけで、このことは非常に重要です。

【横嶋】既存の組織はどの学校でもある筈なのに、研修会などで食育推進組織の有無を訊ねると、半分程度しか手が挙がりません。実際にはほとんどの学校で何らかの組織はあるものの組織的に食育を推進する認識がまだないのだと思います。

・共同調理場の場長を兼務する中で、給食運営委員会において、校長・PTA 会長・栄養教諭等色々な立場の方と共に楽しく安全安心な給食を目指す取組をしている

・各学校の学校保健委員会を地区に広げて学校医、薬剤師、PTA 代表、養護・栄養教諭等と子供の健康について話し合い、今ではとても重要な組織となっている

【二平】組織があっても機能していなければ、食育の推進は難しいと思います。

本校は共同調理場方式で、私はその場長を兼任しています。組織としては給食運営委員会があり、メンバーは受配校の校長・PTA 会長・給食主任で栄養教諭が事務局を務めています。年 2 回の会議では、残食量や食に関する指導の状況等を示しながら、受配校の校長や保護者の立場から献立や指導への要望、感想をお伺いします。そして、それを参考にしながら、食に関する指導を行ったり、おいしく安全安心な給食づくりに取り組んでいます。共同調理場ではこのような話し合いがとても重要で、なくてはならない組織ということになります。

また去年から、学校保健委員会を学校毎ではなく地区で開催することにしました。中学校 1 校、小学校 2 校の学校医や学校薬剤師の皆様、そして、各校長、PTA の代表、養護教諭、栄養教諭がメンバーとなり、子供の健康について話し合っています。2 年前に始めたこの組織も十分に機能し始め、本年度は保護者向けの健康・食育の重要性を示すリーフレットを作成する予定です。

2 つの組織について話しましたが、要は作った組織を機能させ、関係者が一体で取り組むことが大変重要だと思います。

・組織には管理職が入り、多様な立場の人の参加ができる組織作りが重要

【横嶋】組織のメンバーに管理職の方に入って頂く他、PTA や関係機関の方々など、必要に応じて様々な立場の方が入れるような組織作りがとても重要です。

【長島】白田先生のところは、どうですか。

【白田】本校の学校保健安全委員会には学校医・学校歯科医・学校薬剤師の先生や PTA の方も参加しており、食育推進委員会としての機能も兼ねており、意見を交わしています。

・運営委員会で県の農林水産事務所・町の農水課・JA の担当者達とも地場産物使用などについて話し合う

【佐藤】町の食育推進体制としては、4 つの学校給食センターにおける食育の実践内容や問題点などの提言を頂く運営委員会があり、校長先生・PTA 会長・学校医・議員の方が参加されています。

さらに県の農林水産事務所・町の農林水産課・JA・直売所の方々をメンバーとし、地場産物の活用や町内の給食の在り方などについて話し合っています。

・名前が異なっても、PDCA を回していける既存の組織が学校内に既にあることを認識することが重要

【長島】その際、組織が実際機能しているかどうかのポイントですね。食育推進の組織といえば特別な組織を想定して、「設置していない」と答えてしまう現状がありますが、既存のものに目を向けてみるのが大事です。

名前は違っても PDCA を回していくことができる組織が、あることが重要で、今後、食育を推進していくにあたっては、この認識が必要ではないかと思っています。


それでは、給食の時間の指導を校内組織につなげて、しっかり取り組む手立てについて齊藤調査官、お願いします。

・給食の時間における食に関する指導

・給食の時間における指導は、食に関する指導の中核を担う重要なもの

【齊藤】栄養教諭は学級担任と連携・協力し、給食の時間における指導を年間指導計画に位置付け、計画的に継続して進めることが、校内組織の活性化にもつながっていくと思います。

資9 学校給食時間の活用 【一口メモ資料の提供】



6月27日(月)
今日は、ピーマンを使った和え物です。ピーマンは、ビタミンCやビタミンEが非常に多く、夏の暑熱からお肌を守る力も持っています。ピーマンの苦みが苦手という人が多いですが、この苦み成分には、脂肪をつきにくくする効果や、高血圧を予防する効果、血液がドロドロになるのを防ぐ効果など、体によい働きをたくさんもっています。ぜひ、食べたいものです。必ず一日は食べるようにしていれば、きっとおいしく食べられる日がやってくると思います。(健・運)

第67回全国学校給食研究協議大会 第3分科会 県給発表学校経営における食育の在り方
熊本県あさぎり町立免田小学校 資料抜粋

給食の時間における指導は、給食の準備、会食、後片付けなどの一連の指導を、実際の活動を通して、繰り返し行うことができ、食に関する指導の中核を担う重要なものです。栄養教諭が作成する指導資料を担任が活用できる形にすることは、子供の発達段階に応じてうまく咀嚼して指導することにもつながります。この連携が上手くできれば、年間通して、毎日の献立のねらいを踏まえた効果的な指導が可能になると思います。

・一番効率よく食育のできる給食時間に、担任と連携して献立を生きた教材として活用しながら指導

【白田】献立を生きた教材として活用するために、毎日の給食の時間を大事にしたいと考えました。給食の時間には、その日の献立のねらいを伝えるための放送があります。私をはじめに全校生徒に放送をした後、先生方にはお渡しした資料を基に、放送の内容を繰り返してもらってもよいので、一言話して頂くという形で進めました。忙しい先生方の負担をなるべく減らしつつ、全職員が食育に

参加してもらえる方法として生活指導部会や職員会議でもお話ししました。

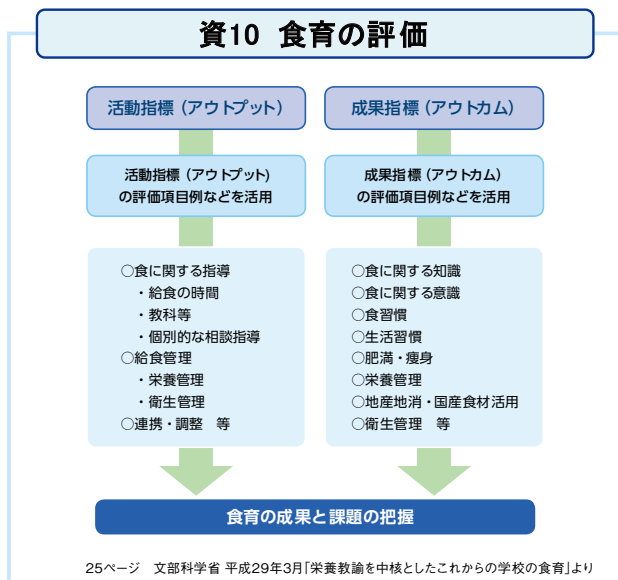
・クイズ形式や献立に関する資料は教職員・子供にも評判がよい

【佐藤】私の町には、1年間を通して地場産物を伝えるマスコットの海土里ちゃん^(※1)がいます。また、日めくり式でA3サイズの学校給食カレンダーを作成して、献立に使用している地場産物を紹介したり、子供たちの興味をひくクイズや分かりやすい資料を載せていますが、先生方にもクイズは給食の時間の指導資料として評判がいいようです。

食育推進の評価の在り方と栄養教諭配置効果の把握

【長島】さて、本冊子(p 23～)では栄養教諭を中核として、学校における食育の推進の効果・評価の在り方が明確にされており、来年以降は本冊子を参考にして計画を設定したいという意見も多く聞かれます。

平成27年の総務省の政策評価^(※2)では、食育の評価として、栄養教諭配置効果の把握が必要とされました。これからの学校における食育は、成果を見える形で示すことが求められており、本冊子の中でも、活動指標(アウトプット)や成果指標(アウトカム)によって評価し、その成果を把握することと、具体的に示されています。横嶋調査官、そのあたりの評価の在り方について、お願いします。



- ・活動指標と成果指標による食育の評価を分かりやすく記載
- ・この12年間の成果を、目に見える形でしっかり評価できれば、栄養教諭配置の評価につながる
- ・全体計画を作るだけでなく、評価することが必要で、本冊子は分かりやすく具体的な評価の考え方や評価指標が記載されているので、ぜひ参考してほしい

【横嶋】総務省の政策評価の中で栄養教諭配置の効果については、「栄養教諭の配置が学校における食育に関する

※1 みどり
海土里ちゃん
福井県越前町における地場産物を伝えるマスコット
【参考】海土里ちゃんの地場産物献立



※2 平成27年の総務省政策評価
「食育の推進に関する政策評価」(平成27年10月23日公表)食育の推進に関する政策について、総体としてどの程度効果を上げているのかなどの総合的な観点から評価を行ったもの

体制の整備に寄与していると考えられる一方、児童の朝食欠食率の減少への寄与は明確には把握できなかった。」ということが指摘されています。そのため様々な角度から配置効果を把握する必要があると考えています。その際、食育を進めてきたこの約12年間を長期的な視点で目に見える形で何が変わったのかを評価ができれば、栄養教諭配置の評価にもつながると思います。

資11 総務省 食育の推進に関する政策評価 個別施策等の評価

(1)学校における食に関する指導

- ①栄養教諭の配置により、学校の食育指導体制は整備
⇔ 栄養教諭配置の効果の把握が不十分

評価書P40～47、P84

- ②小中学校で作成する「食に関する指導に係る全体計画」は、約3割の学校(※)がその達成状況を評価せず

※62校中17校(27.4%)

評価書P48～51、P84～89

栄養教諭配置の効果把握
全体計画の評価の実施を指導
(文部科学省)

総務省 平成27年10月23日「食育の推進に関する政策評価<評価結果に基づく意見>」より

また、「食に関する指導に係る全体計画」については、ほぼ全ての学校で作成されていましたが、約3割の学校は取組状況を評価していないという回答でした。

このような状況を踏まえ、本冊子では各学校がPDCAサイクルに基づき、食育の推進及び評価が適切になされるよう、できるだけ分かりやすく評価の考え方や具体的な評価指標などについて、記載していますので、ぜひ参考にして頂きたいと思います。

- ・本冊子には、活動指標(アウトプット)と共に、成果指標(アウトカム)の両面から事例が記載されているので、ぜひ参考してほしい
- ・給食管理の評価・食育の評価を一体として行ってほしい

【齊藤】食育の評価については、活動指標(アウトプット)と成果指標(アウトカム)の評価が必要であり、本冊子ではその両面からの事例を掲載しているのので、参考にして頂きたいと思います。また食に関する指導と学校給食の管理を一体として推進する観点から、給食管理も食育の評価として示していますので、一体として行って頂きたいと思います。

【長島】本冊子のPDCAの評価指標を基に学校全体での取組を、どのような観点から評価するのか、二平校長先生お願い致します。

- ・PDCAの評価指標を基に学校全体で行う評価の方法
- ・栄養教諭の自己申告シートに活動指標を反映させ、進捗状況を振り返りながら取組を進める



・よく検討して絞り込んだ成果指標を保護者・子供のアンケートと一体化させて行う

【二平】活動指標（アウトプット）の一部については本校でも今後活用できると考えています。具体的には、栄養教諭の教員評価自己申告シートに活動指標とそれを具現化するための方策を記入させ、進捗状況を振り返りながら食育の取組を進めるなどの方法をとります。

アウトカムの成果指標は保護者・子供のアンケートを学校評価と一体化させることが必要であり、学校の実情に応じて指標を選定します。ちなみに当校のアウトカムは、「朝食の摂取の状況」と、「バランスのとれた食事が摂れているか」の2つです。

図2 活動指標(アウトプット)の評価項目例 ※教職員用

区分	評価指標	評価(特記事項)		
食に関する指導	給食に関する指導	給食の時間を活用した食に関する指導が推進され、機能しているか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 栄養教諭と学級担任が連携した指導を計画的に実施できたか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 学級担任による給食の時間における食に関する指導を計画どおり実施できたか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 手洗い、配膳、食事マナーなど日常的な給食指導を継続的に実施できたか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 教科等で取り上げられた食品や学習したことを学校給食を通して確認できたか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 献立を通して、伝統的な食文化や、行事食、食品の産地や栄養的特徴等を計画的に指導できたか。	1 2 3 4	
	教科等に関する指導	教科・特別活動等における食に関する指導が推進され、機能しているか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 栄養教諭が計画どおりに授業参画できたか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 教科等の目標に準じ授業を行い、評価規準により評価できたか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 教科等の学習内容に「食育の視点」を位置付けることができたか。	1 2 3 4	
		個別的な相談指導	偏食、肥満、痩身、食物アレルギー等に関する個別的な相談指導が行われ、機能しているか。	1 2 3 4
			<input type="checkbox"/> 偏食傾向、肥満傾向、過度の痩身等の児童生徒に適切な指導ができたか。	1 2 3 4
<input type="checkbox"/> 食物アレルギーを持つ児童生徒に適切な指導ができたか。	1 2 3 4			
<input type="checkbox"/> 運動部活動などでスポーツをする児童生徒に適切な指導ができたか。	1 2 3 4			
<input type="checkbox"/> 栄養教諭、学級担任、養護教諭、学校医などが連携を図り、指導ができたか。	1 2 3 4			

27～28ページ 文部科学省 平成29年3月「栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育」より

【長島】脇田先生、お願いします。

- ・本冊子の活動指標・成果指標を参考にして評価項目を作成し、2学期末にその結果を確認し評価・判断する
- ・「不登校児がおいしい給食を食べにくる」などは質的な評価となり、量的・質的な評価をバランスよく行うことが必要

【脇田】学校が、自校の食育の推進状況を評価するとき、年度末1回だけのアンケート調査では不十分です。食育の計画や実施状況、推進のための組織などについて客観的に評価することが求められます。その時に、本冊子に示されている活動指標（アウトプット）、成果指標（アウトカム）が大いに参考になります。評価の時期は、年度末の3月では遅いので、2学期末あたりに評価を行い、次年度の食育推進計画に反映させることが大切です。

また、評価にあたっては、「食に関する指導委員会が何回開催された。」「献立を活用した給食時間の指導を全ての学級で実施した。」と具体的に評価できるような調査方

法の工夫も必要です。

さらに、食に関する指導の評価は、数値で示す量的な評価と、具体的な児童生徒の変化で示す質的な評価をバランスよく取り入れていくことも大切です。おいしい給食を食べるためにだけ学校に来ている子供の変容を継続的に見ていくことも質的な評価になります。

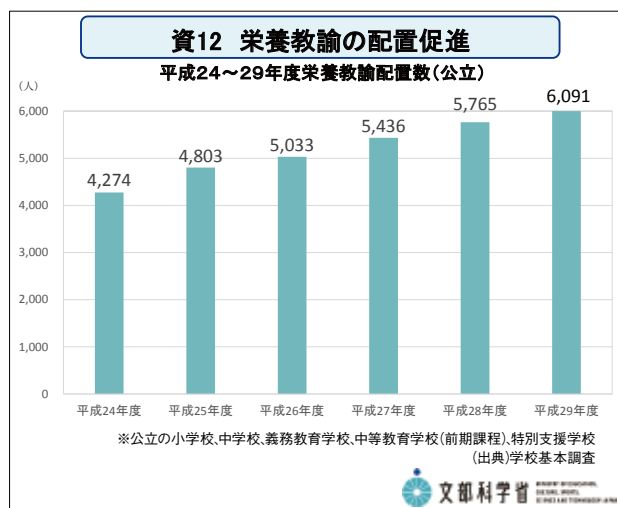
【長島】来年度から本冊子を活用した評価への取組が行われるように、願っています。では、学校全体で取り組んだ学校における食育の成果・評価などについて、お伺いします。

- ・学校が一体となって取り組む食育の成果・評価
- ・栄養教諭を中核とした学校における食育の効果を全て数値で表すのは難しい、数字で表せない食育の重要な効果がたくさんある

【二平】学校における食育の全ての効果を数字で表すのは、難しいです。確かに、食育が導入されていなければ食生活・生活習慣など多くの改善はなかったと思いますが、数字では表わすことのできない大切な食育の効果もたくさんあって、難しいのです。

- ・数字で表せない食育の効果をどのように伝えるか
- ・食育推進全体としての成果や長期的な取組の成果、二次的な効果でもよい
- ・本冊子の評価指標を有効に活用して評価する

【横嶋】私は難しい中においても、食育や栄養教諭配置の効果で数値化できるものを一つでも多く集めておきたいと思っています。もちろん数値化が難しいものはたくさんありますが、それでは主観的な評価に留まってしまいます。これまでお話ししている目に見えない成果では、食育推進や栄養教諭配置の必要性などを訴えていくための材料としては、残念ながらまだ不足で、やはり成果を可視化することが必要です。それぞれの取組に対する成果を見取することは難しい場合もあるので、食育推進全体としての成果や長期的な取組の成果、二次的な効果でもよいと思います。これを含めると、出せる材料はもっとあるのではないかと思います。



先程述べた通り、本冊子には、各学校がそのまま活用できる評価指標の例を活動指標（アウトプット）、成果指標（アウトカム）それぞれについて示しています。実際にこれらについて全て評価するというのではなく、学校の実情に応じて、取捨選択、加除修正などを行った上で、有効に活用してほしいと思います。

【長島】 栄養教諭が学校にいることによって校内職員の意識や子供たち・保護者がどう変わったのか、見えにくいと言われているところですが、白田先生その辺のお話を伺えますか。

- ・栄養教諭不在の体験から、その存在価値を痛感
- ・栄養教諭不在校に異動した校長が、食育が不十分として、栄養教諭の来訪回数を増やしてほしいと要請
- ・学級担任とうまく連携・相談して行えば、子供・家庭の変容にもつながっていく

【白田】 異動された校長先生から「今まで、栄養教諭の存在は普通だと思っていたが、栄養教諭がない学校に異動し、食育の意識が低いことが分かり、給食センターの栄養教諭にどんどん来てもらうように依頼した。」と伺いました。異動先でも校長先生が食育を推進し、栄養教諭を頼りにして下さることを嬉しく思いました。

昨年度、文科省のスーパー食育スクール事業で、栄養教諭を核とした鉄とカルシウムの栄養指導に取り組みました。朝食欠食や内容に関する調査を行い、結果を学級担任に伝え、学級活動でのティーム・ティーチング、保護者への啓発などに活かしました。生徒の状況をよく知る担任の先生と相談しながら指導すれば、変化につながるのではないかと思います。

その結果、5月は朝食を1週間のうち1日でも食べない日がある、が18.1%でしたが、12月の段階では7.5%とかなり減り、また、主食しか食べていなかった生徒の朝食に副食がつく割合が増えてきました。生徒は、食の課題を自分のこととして受け止め、食生活改善に効果がありました。保護者からは「最近朝食を食べるようになったので、自分も作りがいがある。」と伺いました。

【長島】 ただ今のお話から、栄養教諭の働きかけによって食育の成果は上がっていると言えます。では、文科省において、スーパー食育スクール事業・つながる食育推進事業などの取組を通して、見えてきていることをお話し下さい。

- ・文科省の食育推進事業
- ・スーパー食育スクールは、栄養教諭を中核とした食育推進事業の科学的なエビデンスを得るために開始され、各授業の数字は出たが、総体的な比較が難しいという課題もあった
- ・つながる食育推進事業は家庭とのつながりに重点をおき、子供の食に関する意識や食習慣の改善等を目指す

【横嶋】 まず、「スーパー食育スクール事業」は、「栄養教

諭を中核とした食育推進事業」の後継事業です。具体的には、「食と健康」、「食と学力」、「食とスポーツ」、「食文化」、「地産地消」などをテーマとして、地域や関係機関等との連携による取組の充実と科学的データに基づく検証によるエビデンスの取得を目的とした事業です。

それぞれの事業において様々な成果が出ており、詳しい内容については、文科省のホームページ^(※3)で確認することが可能です。

これらの成果を踏まえ、今後、さらに食育を推進するために、家庭とのつながりに重点を置いた事業を実施することになりました。それが、今年度の新規事業「つながる食育推進事業」であり、家庭と連携して、双方向のやり取りをとおして、子供の食に関する意識や食習慣の改善などを目指すものです。

現在、事業前後の変容や事業間の比較ができるよう、事業を実施する15地域で共通のアンケートを行うこととしており、今後その結果等も公表していく予定です。

【長島】 そのあたりから栄養教諭の働き、あるいは学校の食育の推進を把握できる結果が出てくるのではないかと楽しみにしたいと思います。

このように色々な形で食育の評価をするわけですが、食育を学校の評価に位置付けることについて、お伺いします。



画1 校長がリーダーシップを取り「健康・体力向上プロジェクト部会」（栄養教諭が同席）を開催（撮影協力 新潟県村上市立保内小学校）

- ・食育を学校の評価に位置付けること
- ・望ましい食習慣・生活習慣が学力・体力・心によいと見え、食育を学校評価に入れた

【二平】 学校評価というのは、あくまでもその学校が「目指す子供像」を実現するために行い、その効果について評価するわけですから、基本的に食育がその手立てとして必要であると考えられる学校が行うことになります。

本校は、望ましい食習慣・生活習慣を身に付けさせることによって、学力・体力・心によい影響を及ぼすと考えて、食育を学校評価に取り入れています。

食育は学校課題を解決するためにとっても有効ですから、ぜひ多くの校長に、食育に関する項目を学校評価の中に入れて頂きたいと思っています。

※3 文科省「スーパー食育スクール事業」



【長島】脇田先生、ご意見をお願いします。

・数字としては出ないが、子供たちの成長した温かい友への思いやりなどを、素晴らしい効果として伝えたい

【脇田】各学校の食育の取組状況を評価するには、学校評価の項目に、食に関する事項を入れていかなければなりません。ただ、学校評価の項目に入れたからといって学校の食育が充実するとは限りません。学校給食での効果というものを児童生徒の具体的な姿を通して教職員が共有しておくことが必要です。

ある学校の例ですが、「弁当の日」に、いつもコンビニの弁当をもってくる友達のために、グループの子供たちが、おにぎりやおかずを分担して作ってきて、一斉に広げて誰の弁当か分からないようにしたそうです。コンビニ弁当しかもってくるのできない友達に寂しい思いをさせないようにとの心遣いからの行動でした。「弁当の日」や給食を通して、友達に対する思いやりの心が育っているのだと思います。このような子供たちの食に関わる素晴らしいエピソードは、児童生徒や教職員のみならず保護者や地域住民にも積極的に紹介すべきです。そうすることで、学校給食や食の素晴らしさを知ってもらうことになります。

【横嶋】素晴らしいお話ですね。そういう事例もこれから見取っていく必要があると思います。しかしながら行政資料としては数値に示された評価も必要となるので、そういう意味でやはり両方が必要だと思います。

【長島】両面からのバランスが大事ですね。

・本冊子はできるだけ多くの学校で、食育を学校評価の中に取り入れることができる基礎資料として活用できるように、多くの指標を例示した
・プラス効果になることを実感しながら「学校評価の中で使える食育」を進めて、結果として学校評価に入れていくという方向性が望ましい

【横嶋】学校評価はあくまで学校が行うものですから、文科省として義務付けることはできませんが、食育推進課として、一校でも多く、学校評価の中で取り上げて頂くのが望ましいと思っています。本冊子では学校評価を行う際の基礎資料として各学校が活用できるよう、多くの指標を例示しましたので、各学校が食育の評価を行う中で、先生方自身が子供たちの変容を肌で感じ、食育推進の必要性を実感することにより、結果として学校評価の中に位置付けられていくことが望ましいと思います。

現状と課題を踏まえた栄養教諭の役割

【長島】チーム学校における食育推進体制を機能させるためには、要となる栄養教諭の役割を明確にして、学校や自治体における栄養教諭の職務に対する理解が必要ですが、現状と課題を踏まえて、お願いします。

・栄養教諭配置促進に向けて、栄養教諭が心がけること
・学校や自治体が栄養教諭配置による効果を理解することが大切

【齊藤】栄養教諭が配置されたことによって、例えば教材となる献立内容が変わる、子供にこのような効果があるなどの具体的な事例が示せるとよいと思います。この効果を学校や自治体が理解することが、栄養教諭配置による効果にもつながるのではと思います。

【長島】二平校長先生お願いします。

・数値で表せない効果は配置促進になり難いが、せめて2校に1名のレベルで標準法の改善があればと思う

【二平】栄養教諭が1校1名いるとよい効果があることを証明できればよいのですが、数値で表せない効果がありますから、とても難しいです。

しかし、食物アレルギー対応を一つとっても、栄養教諭がいるといないでは、安全性を確保する上で大きな違いがあります。学校にとって栄養教諭は必要不可欠と考えますので、1校1名が無理であれば、せめて2校に1名のレベルで標準法^(※4)の改善があればよいと思います。

【長島】脇田先生はいかがでしょうか。

・個別指導になくてはならない専門職としての役割
・専門職としての栄養教諭は、児童生徒個別の目標達成に向けて、それぞれの個に応じた教育の対応をすることが重要である

【脇田】新しい学習指導要領特別活動編には、「カウンセリングの趣旨を踏まえて指導すること」が示されました。このことは、自身の食に関する課題を解決するために、「児童生徒が自分で決めた個人目標」の達成に向けて実践し、一人一人の個に応じた教育の対応をすることが重要である、と示されたのだと思います。そのため栄養教諭には、学級担任と一緒に授業を展開する専門性と個々の児童生徒に対応する専門性が求められるのです。

【長島】白田先生、佐藤先生、栄養教諭の数が少ないという厳しい状況の中で、どのように手立てをしておられるのか、お話を頂けますか。

・栄養教諭が少ない中で精一杯頑張っているが…
・栄養教諭の配置が少ない中、思いをもって取り組んでいるが、複数になればもっと充実すると思う

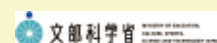
資13 栄養教諭等の配置基準

○ 単独実施校

- ・児童生徒数 550人以上 → 1校に1人
- ・ " 549人以下 → 4校に1人
- ・ " 549人以下の学校数の合計が3校以下 → 1市町村に1人

○ 共同調理場

- ・児童生徒数 1,500人以下 → 1場に1人
- ・ " 1,501人以上6,000人以下 → 1場に2人
- ・ " 6,001人以上 → 1場に3人



※4 標準法
公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律

【白田】最近では共同調理場が増えており、七宗町も近隣の市町も栄養教諭の配置は1人で、何校もの受配校があります。私にとっては、本務校・兼務校に関わらず、給食を提供している全ての子供たちが大事なので、兼務校においても、各学校の先生方と連携して大切な食育に思いをもって取り組んでいます。また、調理や衛生管理、食物アレルギーの対応を確実にを行うため、調理員との関わりも大事にしています。しかし、1人で判断して全ての業務を行うのは大変で、時には悩むこともあります。栄養教諭が複数になれば、色々な事案への対応や食に関する指導の方法など、お互いに意見を交わし相談や協力ができれば、大きな力となります。若い栄養教諭も育てていくと思います。

【長島】佐藤先生はいかがでしょう。

・栄養教諭の人数が少ない中で、精一杯取り組む様子を見て、多くを学んでいる

【佐藤】現在は給食センター勤務で本務校と兼務校1校という恵まれた環境ですが、実は来年、町内の共同調理場が統合され、受配校が12校になります。今ぎりぎり1500人超えています、12校で1人となった場合は、まわることがとても難しくなると思っています。また、兼務校が5～6校もあると、子供たちの実情に合わせた食の指導がなかなかできないようですが、そんな中、少しでも子供のために効果的な指導を提供したいと精一杯頑張っておられる先輩方の様子を拝見して、私自身、学ばせて頂くことが多いです。

【長島】現実的には様々な課題がたくさんありますが、横嶋調査官はこのあたりいかがでしょう。

・今後、教員数が減少となる中で、年々栄養教諭数は増え続けており、通例配置基準の改善は難しい
・栄養教諭の必要性が取り上げられるに至ったポイントは悪化する健康問題への個別対応が急増したこと
・配置促進につながる一番大事なことは、栄養教諭自身が資質を高めて研さんし、管理者・担任・保護者・地域から求められる栄養教諭になること

【横嶋】今後、間違いなく少子高齢化が進み、現在の教員定数が変わらなければ栄養教諭も減少することになります。現時点では、毎年少しずつ栄養教諭は増加していますが、決して安心できる状況ではありません。まずは、各都道府県において栄養教諭の必要性を訴えるためにも、現在約50%の栄養教諭の配置割合を高める必要があります。配置割合が高まらない中で配置基準を変えるための議論を進めることは難しいと思います。

一方で、食に関するものを含む健康課題に関しては年々悪化・複雑化しており、食物アレルギー・肥満・痩身の問題など、個別の対応を必要とする子供が非常に増えており、栄養教諭の必要性が増してきているとも言えます。

そうしたことから、今大事なことは、管理職者・学級担

任、それから保護者・地域の方々など栄養教諭以外から求められる栄養教諭になることです。そういった方々から声が上がれば、栄養教諭を増やしたい、また、定数を見直していこう、という流れになっていくと思います。ぜひ、栄養教諭自身の資質を高めて、みんなに求められる栄養教諭になって頂きたい。それが結果として配置拡大にもつながると思います。

一定水準以上の食育が全ての学校の子供たちに平等に行われることを願って

【長島】厳しい状況ですが、栄養教諭はやはり必要だと理解して頂けるような自身の研さんが重要であると再認識したところです。願わくは標準法を見直して頂いて、せめて2校に1名、あるいは学校給食が届いている学校に栄養教諭が必ずいれば、給食を教材とした食に関する指導も充実します。将来、全ての学校に配置が進んでいくことを、切に願っています。

では最後にまとめとして、ひと言ずつお願いします。

・子供が変容し、子供自身の行動について意思決定をしていくことができるような授業を組み立ててほしい

【脇田】栄養教諭の研修会にいくと、いつも熱心に参加しておられる様子に接しますが、その都度、ただの感想だけで終わる授業ではなく、子供が変容するような授業、子供が自分の行動目標を意思決定できる授業をしっかりと組み立てて頂きたい、とお話しています。

・学校現場に必要な不可欠の存在であることを栄養教諭自身が自覚して、積極的に学校運営に参加してほしい

【二平】栄養教諭は学校現場において求められている存在・期待されている存在です。このことを栄養教諭自身がよく自覚し、どんどん学校運営に参画してほしいと思います。職員会議などで、自校の食育推進に関する意見を述べたり、担任に給食指導の依頼をするなど、様々な参画の仕方があると思います。

大切なことは、積極的に学校運営上プラスになることを、提案したり活動したりすることです。校長に食育の重要性をしっかりと理解して頂き、食育を学校経営の中に取り入れて頂けるように、熱意をもって提案してほしいと思っています。

栄養教諭が積極的に学校運営に参画し、食育によって学校を盛り上げることができたなら、間違いなく子供はよい方向に向いていくと私は信じています。

・将来、小・中学生が健康的な生活のできる大人に育って、次世代に伝え、日本を支えていく、この大事な仕事を私たち栄養教諭は行っていると改めて実感

【白田】私たちが積極的に働きかけ、先生方ともしっかりと食育を行うことで、将来、子供たちが健康な大人に成長してくれるのではないかと、そして次の世代に正しい食

生活を伝えて日本を支えてくれるのではないか、そんな未来に向けての大事な仕事を私たちはしているということに改めて感じています。これからも「食を楽しむと共に健康の源となる食を大切にしてもらいたい」そのことを子供たちや先生方に伝えていきたいです。

・栄養教諭しかできないことを強い志をもって取り組む

【佐藤】栄養教諭にしかできないことを、子供たちや地域の人達にこれからも継続して発信し、町全体で食育を盛り上げたいと思います。そして栄養教諭としての役割を認めて頂けるように強い志をもって、これからも取り組もうと、改めて思いました。

・栄養教諭だからできることを取組評価につなげて、食の指導・給食管理と併せて衛生管理もしっかり取り組み、栄養教諭自身の資質を向上させてほしい

【齊藤】栄養教諭の資質を向上して頂くことがとても大切であり、栄養教諭だからできることをぜひ食育の取組の評価に上手につなげて頂きたいと思います。また、コーディネーターという役割を活かし、いい形で学校経営計画と関連させながら、食に関する指導と学校給食の管理を一体とし、基本となる衛生管理も併せて取り組んで頂きたいと思います。

・栄養教諭しかできない「給食の管理をしながら食の指導をする」という大きな強みを前面に出して取り組み、栄養教諭を増やそうという流れになっていく

【横嶋】教諭ではなく栄養教諭にしかできないことがあります。

それは、学校給食の管理をしながら食に関する指導を行っていくことです。この栄養教諭にしかできない強みをよく認識して、職務を遂行してほしいと思います。これからの栄養教諭には、食育推進の中核として食に関する指導と学校給食の管理をPDCAサイクルに乗せて推進していくことが求められています。単独調理場や共同調理場、兼務校の有無など、配置環境が異なる中、それぞれの栄養教諭にできることは違ってくると思います。自分が何をやるべきで、どういう方法で取り組んだらよいかを一人一人がよく考え、組織として計画的に食育を推進してほしいと思います。

・全ての子供たちに食の指導を等しく提供できるように
・全ての学校において、子供たちに一定水準以上の食育が提供されることを願う

【長島】皆様の貴重なご意見、具体的なお話をたくさん頂きました。これからの予測不能で複雑な世の中を生きていく子供たちを育てていく上で、食は何より重要なキーワードとなります。学校における食育の中核となる栄養教諭が担う役割、チーム学校として全ての職員が一体となった食育の推進、指標の設定と評価など、学校全体で果たす役割が、本日の座談を通して、はっきり見えてきたように思います。

一日も早く、全ての子供たちに一定水準以上の食育が学校において行われることを願って、座談を締めさせて頂きます。ありがとうございました。(終)



座談にご参加の先生方(左より)
白田典子先生 二平芳信校長 横嶋 剛調査官 長島美保子会長 齊藤 るみ調査官 脇田哲郎教授 佐藤佳代先生

【編集後記】座談を終えて、学校全体で進める食育の具体的な課題や、今後に向けて望まれることなど、多くの項目が、はっきり見えてきました。特に関わる方々自身が、今後に向けてどのような心構えをもって、携わっていかれるべきか、という具体的な指標がお話の中から、示されたように思います。

学校における食の指導が一過性の取組ではなく、子供たちが将来にわたって心身ともに健康で、強く生きる力を備えた大人に育っていくための教育として、今後も継続して推進されることを切望しています。そして本号の発信が文部科学省の冊子「栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育」～チーム学校で取り組む食育推進のPDCA～が広く効果的に活用される一助となれば、幸いです。

本号ご希望の方は、送付先住所・氏名・電話・FAX番号・メールアドレス・希望冊数をご記入の上、当協会事務局までFAX又はメールにてお申込みください。

TEL.03-3357-6755 FAX.03-3357-6756 E-mail: kaizen@gakkyu.or.jp



本紙記事・写真・図表等の無断複写・複製・転載を禁じます。学校教育現場等で指導に活用される際には、必ず、「転載・引用等許可申請書」(当協会ホームページ掲載)にて、お申し込みくださいますようお願いいたします。指導資料としてご利用の場合は追加発送させていただきますので、お知らせください。